

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000051		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	グループホーム白珠 ユニット1		
所在地	愛知県豊橋市平川本町1丁目15-2, 15-3		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000051-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護の三原則1. いつも暖かい愛情と笑顔で2. 決して、叱らず、制止せず3. 今、出来ることをしていただく。さわらび会理事長 医学博士山本孝之の理念をいかなる時も堅持し、サービスの提供に努めています。白珠は、閑静な住宅街にあり豊橋鉄道市内電車井原駅下車、徒歩5分と交通の便も良く、周辺には公園や喫茶店などもあります。社会福祉法人内には、特別養護老人ホームや居宅や地域包括支援センターもあり、その人の状態や要望に応じたサービスの提供が可能です。協力病院との連携もとれ安心、安全なサービスが提供出来ます。地域の方々によるボランティア活動も活発に行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、法人理事長が目指している「認知症介護の三原則」を理念に運営されている。管理者、職員は、法人全体、ホーム単独で開催される研修や勉強会に参加する事で、認知症、高齢者介護の専門知識を深め、利用者が地域の一員として生活できるよう日々のケアを心掛けている。また、関連の医療機関と連携し、利用者が重度化した場合や看取りケアが必要になった時には、利用者一人ひとりにふさわしい生活の場を家族と話し合いながら支援している。ホームで定期的に行われる運営推進会議や家族会では、多数の家族や地域住民の参加があり、参加者からの意見で、「薬の勉強会」等をテーマで話し合いが行われており、毎回、充実した内容となっている。今後も、地域と連携しながら、利用者職員が、今年度の目標である「はじける笑顔の白珠」として活動される事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、さわらび会理事長、医学博士山本孝之の「認知症介護の三原則」を唱和し、いかなる時も理念を堅持し、サービスに努めています。	ホームでは、法人全体の理念を掲示し、毎朝の朝礼で唱和したり、名札に理念を印刷する事で職員に浸透するよう取り組んでいる。また、ホームの今年度の目標を玄関に掲げ、職員一人ひとりが意識してケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢者消費者被害予防講座を白珠で開催しました。定期的に地域のボランティアの方々による大正琴の演奏会、脳トレダンス、手品などがあります。	利用者は、近隣の保育園の運動会へ見学に出掛けたり、地域の祭りに参加している。また、家族会で行われたAEDの使用方法を地域住民も参加したり、高校の実習生を受け入れる等、地域に貢献している。	現状、地域の回覧板にホームの紹介を載せる予定がある。これをきっかけに今後、地域との交流が、より一層深まる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散歩を通して、ご近所の方々とふれあう時や、ボランティアが行事で来荘された時など、一緒に過ごして理解して頂ける様にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回参加者が増え、様々な意見交換が出来てサービス向上に生かされています。5月の運営推進会議では、外部評価機関をお招きして、外部評価についての勉強会を行いました。	会議には、家族や地域住民の参加が多く、活発に意見が出されており、地域の方からは、福祉のサービスを知る機会になったとの感想もあった。また、会議後には、家族や参加者に、議事録を送っている。	現在、老々介護で暮らす方を地域で支えていく方法を地域の方と運営推進会議の場で検討したいと考えており、職員も会議に参加しながら今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	4月からの介護保険改定時は、書類作成などアドバイスを頂きました。9月の運営推進会議に参加して頂き、介護保険の新たなサービスなどについて、説明をして頂きました。	ホーム運営上で不明点があれば、市担当者に相談し解決している。また、ホームは、市の主催する「いきいきフェスタ」に毎年参加しており、利用者が作った作品を出展している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、防犯上施錠があります。フロア出入り口の施錠は、階段との温度差があったり、その日の利用者の様子が異なりますが、拘束ゼロを意識してケアに努めています。	ホームでは、身体拘束防止委員会があり、委員が中心になり勉強会を開催している。さらに、法人の合同研修に参加する事で、身体拘束についての理解を深めており、身体拘束のないケアを心掛けている。	現状、ホーム玄関は施錠されており、利用者が自由に出入り出来ない環境である。今後、鍵をしないで見守りをする方法を検討する等、取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り定期的に勉強会を開催しています。現在の現場について、思い当たる行為が無い意見交換を行っています。どんな行為が虐待にあたるのか、勉強会で学びました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用しています。高齢者虐待について研修を行いその中で権利擁護について学びました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	平成24年4月2日(月)白珠家族総会にて、介護保険報酬改定について説明を行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、行事などに多くの方々が参加され、いつでも話せる関係が出来てきました。年に1回12月にアンケートを行い、意見を反映させています。	ホームでは、家族会を開催したり、独自アンケートで家族の意見を集め、その内容を職員にフィードバックし、改善に繋げている。また、毎月、個別でホーム便りを発行しており、家族は、利用者の日頃の様子を知ることができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案などがある時は、ジャストタイムで白珠全体会議を開催して、職員の意見を聞いて解決しています。	ホームでは、利用者のケア内容や業務について、話し合いが必要な時は、随時、会議を開いており話し合いを深め改善に努めている。また、管理者は、日々の業務の中で、職員の意見を聞いたり、相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回法人の代表者へ、一人一人がメッセージを届ける機会があります。職員のキャリアに合わせ研修会が企画され、参加しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、山本理事長を始めとし、各専門家から定期的に学ぶことが出来るさわらび大学があります。それぞれのレベルにあった研修が企画され、参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設研修へ出かけ、他施設からも職員の受け入れをしています。良い所は、積極的に取り入れています。研修や各種会合に参加して、他施設職員と交流を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には、家族や担当ケアマネジャーから情報提供をして頂き、本人とは面談時、要望等お話をお聞きます。入居後は、担当職員を決め信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には、家族や担当ケアマネジャーからお話をお聞かしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、家族、本人と話し合い、意見交換をして、法人内の他施設(特養等)、協力病院とも連携し、その時に必要なサービスを見極める努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、たたみ等、生活の中で時間がかかっても、出来ることはして頂いています。理念を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、生活記録を見て頂き、本人の様子を報告しています。主治医とは、訪問診療時に今後の治療方針についてお話をされ、家族の気持ちを反映したケアを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出等の声掛けと支援をしています。	利用者は、家族と一緒に食事や法事、墓参りに出掛けており、正月には、泊りで自宅へ帰られる方もいる。また、利用者は、ホームに訪ねて来る友人と一緒に外食に出掛けたり、趣味の習字を楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や状態をみて、リビングの席や配置を考えています。トラブルになる前に、早めに声掛けするなどして対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の他施設に入所された際は、機会がある時は面会して声を掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望が表現出来ない方が多くみえます。面会時等、家族から願いをお聞きして、出来る範囲で対応しています。	ホームでは、利用者の把握にセンター方式を活用しており、入居時に家族の協力を得てアセスメントしている。職員は、利用者との関わりの中で、気付いたことは、申し送りやカンファレンスで情報として共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時や担当のケアマネジャーより情報を提供して頂いています。入居後は、本人に直接お聞きしたり、面会時に家族からお聞きして、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤後、申し送りをを行い最新の情報を共有しています。毎日、個別の生活記録を記入して、状態が分かるようにしています。訪問診療者情報には、体調について最新情報が記載されています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアチェック表でケアプランを確認しています。毎月、月末に評価して、ケア内容を見直しています。現状にあったケアプランを作成しています。	職員は介護計画に基づいたケアが出来ているか、ケアチェック表を用いて確認しながら、毎日、モニタリングを行っている。それに基づきながら、介護計画を基本3か月毎に家族の意見も確認しながら見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は、リアルタイムで記入しています。出勤時には、生活記録、申し送りノートを確認しています。受診者情報は、適宜朝礼時に発表しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員で出来る範囲は、ケアカンファレンスを行い対応していますが、家族の指示が必要な場合は、報告相談しています。他サービスへの移行等、情報提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々がボランティアで体操、工作、歌などを教えて下さり、生活を楽しむことができています。豊橋市開催のいきいきフェスタに作品を展示しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、協力病院より訪問診療があります。立ち会われ、主治医に相談される家族もあります。希望や必要に応じて、他の医療機関を家族と受診される方もみえます。	ホームでは、協力医療機関による週1回の往診を受ける事ができ、状態変化時には電話で医師や看護師から指示を受ける事が可能である。また、協力医療機関に関しては、職員支援により受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良、異常がみられた時は、訪問診療の看護師や協力病院の看護師に上申して指示を頂いています。場合によっては、協力病院を受診し対応します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携はとれています。病院の相談員とも情報の交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針として看取りは行わないが、重度化した場合については、家族と話し合いながら、協力病院、特別養護老人ホームの関係者と相談して対応しています。	ホームでは、看取りを行わない方針であり、入居時に家族に説明している。必要に応じて、医師も同席で意思確認し、利用者の状態に合わせて重度化した後の生活を家族と一緒に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年6月、消防署の協力を頂きAEDの講習会を行っています。急変時のマニュアルがあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っています。	ホームでは、年3回、災害を想定した訓練やAEDの使用方法を学ぶ機会を設けている。ホーム備蓄品を保管する倉庫の設置場所について消防署から助言を得ている。また、地域の訓練に職員が参加し、地域との協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際は、必ずノックして声掛けしてから入室しています。汚れたりハビリパンツやパッドは他者の目に触れない様に、新聞紙に包んで破棄しています。	職員は、接遇やプライバシーの確保について、職員研修を通して学ぶ機会を得ている。また、日々の現場の中で、不適切な言葉掛けや行動があれば、管理者や職員は、互いに注意し合うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声掛けと傾聴を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は、おしゃれを楽しまれています。必要時は、家族に相談してその人らしいものを用意して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳は湯呑1個でも良いので、出来る範囲でお願いしています。全員のお盆拭きは、無理なく出来る方をお願いしています。	ホームでは、食生活により、体調を整える事を重視しており、食事メニューは、利用者の嗜好を取り入れつつ、法人の管理栄養士が作成し、ホームの食生活委員が確認、アレンジしている。また、配膳や片付け等、利用者にはできる事に参加している。	現状、利用者の重度化が進み、職員による介助が増え始めている。安全を確保した上で楽しめる食事を提供できる職員体制を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事摂取量を記入し、入浴後やおやつ時などに、手作りの飲料を飲んで頂いています。水分補給に努めています。バックアップ施設である特養の管理栄養士が、献立を作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、結果を生活記録に記入しています。毎週日曜日、入れ歯を洗浄剤で消毒し、清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は、排泄表を付けて声掛けトイレ案内をしています。	ホームでは、安易に紙オムツ等に頼る事しないで、トイレで排泄してもらえるよう支援しており、入居後に改善された方もいる。また、必要な方に対して、排泄表を用いて排尿間隔を把握し、トイレへ案内している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつに乳酸菌飲料を提供するようにしました。それでも排便が困難な方は、職員が主治医指示のもと、下剤や座薬を使用して排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前、バイタルの確認をします。希望を伝えることが出来なったり、入浴を嫌がる方もみえます。出来るだけ気持ちに添うようにしています。	ホームでは、月曜～金曜に風呂を用意しており、土曜、日曜、祝日はシャワー浴や清拭で対応している。拒否される利用者には、家族と相談したり、声掛けを工夫して入浴してもらえるよう支援している。また、柚子湯や菖蒲湯を楽しみとして取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にされています。夜間見守り、巡回を定時に行っています。夜間起きて活動される方が複数みえます。訪問診療時、主治医に報告相談しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が一覧表になっていて、いつでも確認できます。受診者情報に、薬の情報が個人で綴られ、いつでも見ることが出来ます。処方変更後は、主治医に状態を報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域住民による各種ボランティアが来荘され、レクリエーションなど楽しい時間を過ごされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザが流行する時期は、感染症予防の為、外出は控えています。家族会では、家族の協力を頂き、マイクロバスを使い、全員で外出に出かけました。	ホーム近隣にドラッグストアが開店したことにより、利用者が日用品の買物に徒歩で出掛ける機会が得られた。外出の好きな利用者は1日に2回出掛けられる事もある。また、家族の協力を得て、外食等に出掛ける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	10,000円程度のお小遣いを預かっています。お金を所持したり使うことが困難な方が多い為、職員が支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	アメリカの娘様からエメールが届いたり、遠方の親戚から手紙が届く方がみえます。暮には、皆様が、白珠に来荘されるボランティアの方々に年賀状を書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓やエアコンで室内の温度を調整しています。夏場は、脱衣所に暖簾を掛け、見た目にも涼しさを演出しています。	リビングは、落ち着いた雰囲気を維持する為、シンプルであるが、階段やエレベーターホールには、利用者の習字等の作品や、行事の写真掲示等がされている。また、ベランダには、利用者が自由に出入りしており、洗濯物を干したり、季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性を見ながらリビングの席替えを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置しています。自立されている方は、衣類の入れ替え等自由にされています。	居室には、トイレ、洗面台があり、各居室で壁紙を変えて個性を出している。さらに家具類の持ち込みも自由になっており、掃除機を持ち込み、自分で掃除している利用者もいる。また、家族の写真を飾る等、一人ひとり個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節の壁紙を皆様で作って頂き、リビングに飾っています。室内はバリアフリーで、シルバーカーを利用し、安全に自由に移動される方もみえます。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム白珠

目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	食事を楽しむことができる支援について、利用者の重度化が進み、職員による介助が増え始めている。安全を確保した上で楽しめる食事を提供できる職員体制が必要。	安全に楽しく食事する。	食事と一緒に食事をとり見守り支援する。休憩時間を工夫する。	6ヶ月
2	3	運営推進会議を活かした取り組みについて、老々介護で暮らす方を地域で支えていく方法を地域の方と運営推進会議の場で検討したい。	地域住民だけでなく、職員も運営推進会議に参加して意見交換する。	勤務を調整して、全職員が順番に運営推進会議に参加する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月